

# 宮崎県感染症週報

宮崎県健康増進課感染症対策室・宮崎県衛生環境研究所

## 宮崎県第49週の発生動向

### 全数報告の感染症 (49週までに新たに届出のあったもの)

- 1類感染症：報告なし。2類感染症：結核4例。3類感染症：報告なし。
- 4類感染症：つつが虫病9例。5類感染症：播種性クリプトコックス症1例。

疾患名	報告保健所	年齢群	性別	病型・類型	症状等
2類 結核	宮崎市	60歳代	女	肺結核及び粟粒結核	発熱
		70歳代	男	結核性胸膜炎	呼吸困難
	都城	80歳代	男	肺結核	咳、痰、発熱
		50歳代	男	無症状病原体保有者	—
4類 つつが虫病	宮崎市	70歳代	男	—	刺し口、発疹
		70歳代	男	—	発熱、発疹、筋肉痛、腰痛、結膜充血
	都城	50歳代	男	—	発熱、刺し口
		70歳代	男	—	頭痛、発熱、刺し口、リンパ節腫脹、発疹、倦怠感
		70歳代	男	—	刺し口、発疹
		80歳代	女	—	発熱、発疹
		80歳代	男	—	発熱、刺し口、発疹
		小林	60歳代	男	—
	高鍋	60歳代	男	—	発熱、刺し口、リンパ節腫脹、発疹、気管支炎(咳嗽)
	5類 播種性クリプトコックス症	宮崎市	70歳代	男	—

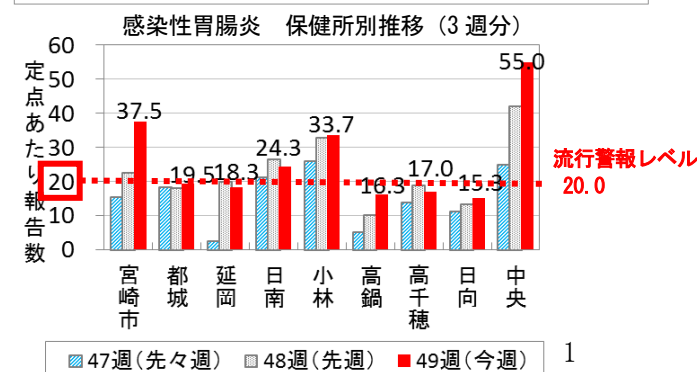
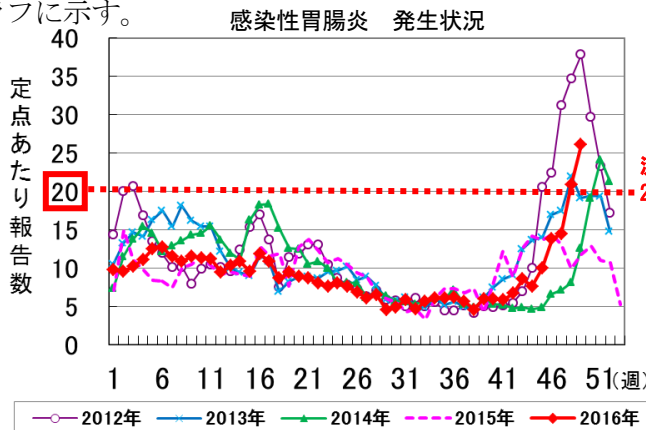
### 定点把握の対象となる5類感染症

・定点医療機関からの報告総数は1,340人(定点当たり40.6)で、前週比107%と増加した。前週に比べ増加した主な疾患は溶血性レンサ球菌咽頭炎と感染性胃腸炎で、減少した主な疾患は手足口病と流行性角結膜炎であった。

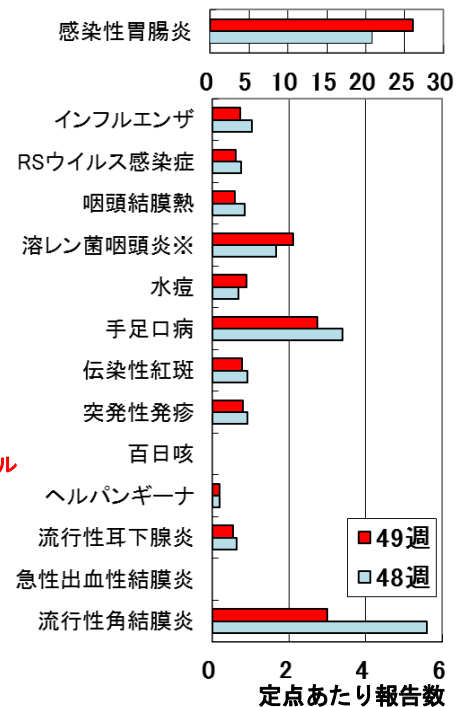
#### ★インフルエンザ・小児科定点からの報告★

##### 【感染性胃腸炎】

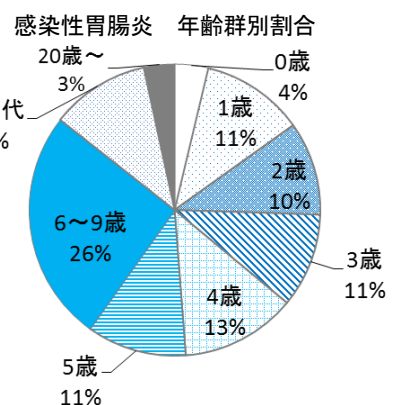
報告数は937人(26.0)で、前週比125%と増加した。例年同時期の定点あたり平均値\*(18.6)の約1.4倍であった。中央(55.0)、宮崎市(37.5)、小林(33.7)保健所からの報告が多く、年齢別は別グラフに示す。



### 《前週との比較》



※ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



【インフルエンザ】

報告数は43人(0.73)で、前週比70%と減少した。例年同時期の定点当たり平均値\*(0.45)の約1.6倍であった。日南(4.2)、高千穂(3.0)、都城(0.9)保健所からの報告が多く、年齢別は9歳以下が全体の約6割を占めた。

\* 過去5年間の当該週、前週、後週(計15週)の平均値

★基幹定点からの報告★

○マイコプラズマ肺炎:

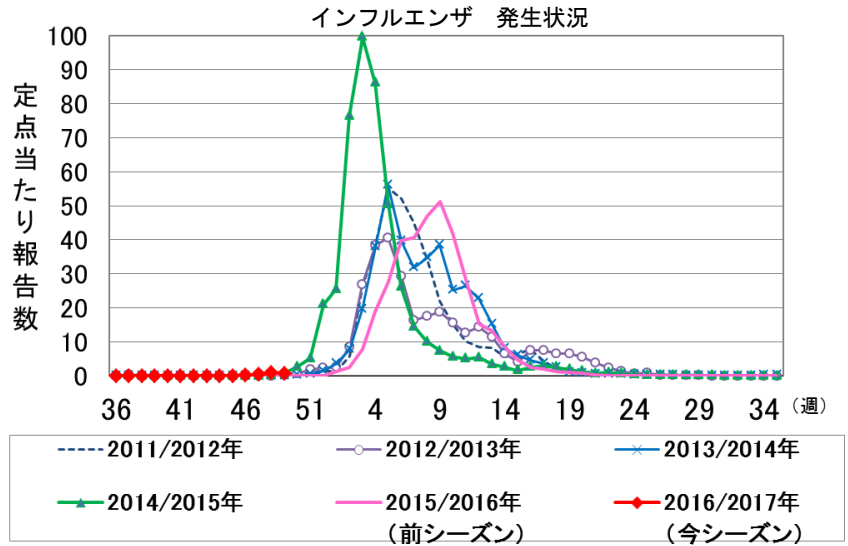
宮崎市(4例)、日向(3例)、延岡、高鍋(各2例)保健所から報告があった。0~4歳が5例、5~9歳が5例、10歳代が1例であった。

★保健所別 流行警報・注意報レベル基準値超過疾患★

保健所名	流行警報・注意報レベル基準値超過疾患
宮崎市	感染性胃腸炎(37.5)
都城	なし
延岡	なし
日南	感染性胃腸炎(24.3)
小林	感染性胃腸炎(33.7)、手足口病(5.3)
高鍋	なし
高千穂	流行性耳下腺炎(6.0)
日向	伝染性紅斑(2.8)
中央	感染性胃腸炎(55.0)

\* 流行警報レベル開始基準値\*

- ・感染性胃腸炎(20.0)
- ・手足口病(5.0)
- ・伝染性紅斑(2.0)
- ・流行性耳下腺炎(6.0)



🇯🇵 全国 2016 年第 48 週の発生動向

□ 全数報告の感染症 (全国第 48 週)

1類感染症	報告なし				
2類感染症	結核	317 例			
3類感染症	細菌性赤痢	1 例	腸管出血性大腸菌感染症	27 例	
4類感染症	E型肝炎	6 例	A型肝炎	2 例	ジカウイルス感染症 1 例
	重症熱性血小板減少症候群	1 例	つつが虫病	50 例	デング熱 4 例
	日本紅斑熱	2 例	レジオネラ症	25 例	
5類感染症	アメーバ赤痢	15 例	ウイルス性肝炎	2 例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症 18 例
	急性脳炎	8 例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	4 例	後天性免疫不全症候群 18 例
	ジアルジア症	1 例	侵襲性インフルエンザ菌感染症	4 例	侵襲性肺炎球菌感染症 44 例
	水痘 (入院例)	5 例	梅毒	69 例	播種性クリプトコックス症 2 例
	破傷風	2 例	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1 例	風しん 1 例
	麻しん	1 例			

□ 定点把握の対象となる5類感染症

定点医療機関当たりの患者報告総数は前週比125%と増加した。前週と比較して増加した主な疾患はインフルエンザと感染性胃腸炎であった。減少した主な疾患はRSウイルス感染症と手足口病であった。

インフルエンザの報告数は12,334人(2.5)で前週比139%と増加した。例年同時期の定点当たり平均値\*(0.76)の約3.3倍であった。沖縄県(10.3)、栃木県(7.5)、岩手県(6.2)からの報告が多く、年齢別では9歳以下が全体の約4割を占めた。

感染性胃腸炎の報告数は54,876人(17.4)で前週比135%と増加した。例年同時期の定点当たり平均値\*(9.9)の約1.7倍であった。宮城県(45.8)、山形県(33.5)、三重県(27.7)からの報告が多く、年齢別では3~5歳が全体の約4割を占めた。

\* 過去5年間の当該週、前週、後週(計15週)の平均値

## 月報告対象疾患の発生動向 <2016年11月>

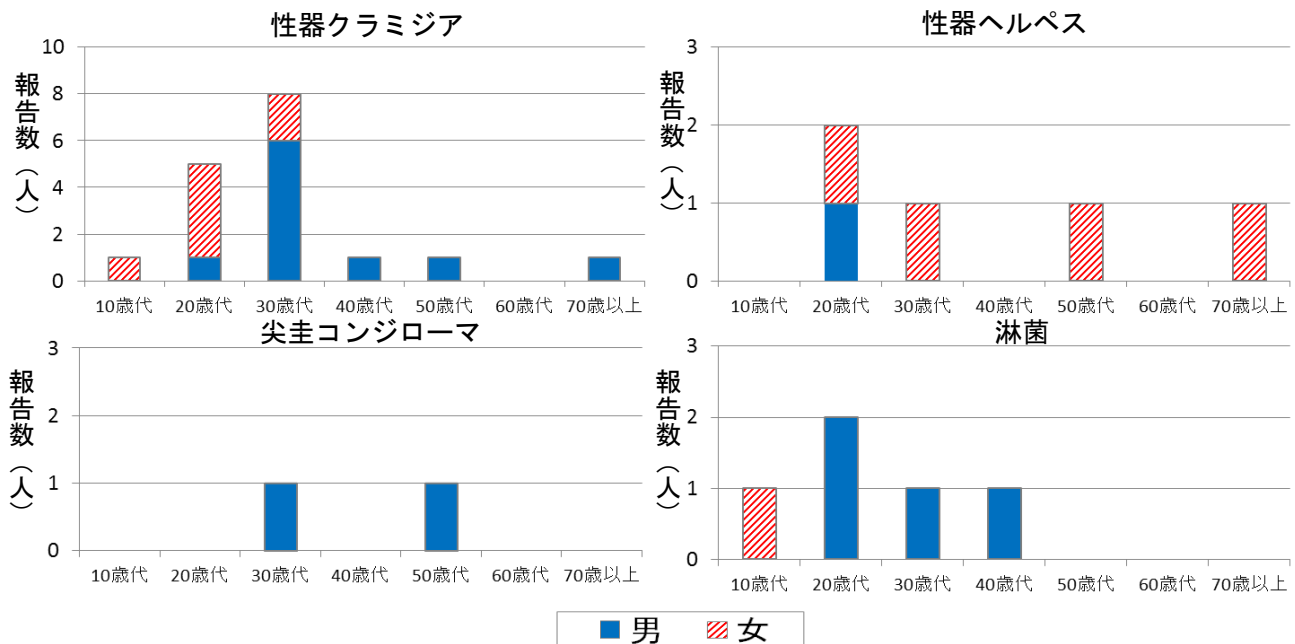
### □性感染症

【宮崎県】 定点医療機関総数：13

定点医療機関からの報告総数は29人(2.2)で、前月比69%と減少した。また、昨年11月(2.8)の約0.8倍であった。

《疾患別》

- 性器クラミジア感染症：報告数17人(1.3)で、前月(1.9)の約0.7倍、昨年11月(2.1)の約0.6倍であった。30歳代が全体の約半数を占めた。(男性10人・女性7人)
- 性器ヘルペスウイルス感染症：報告数5人(0.38)で、前月(0.15)の2.5倍、昨年11月(0.23)の約1.7倍であった。(男性1人、女性4人)
- 尖圭コンジローマ：報告数2人(0.15)で、前月(0.08)の2.0倍、昨年11月(0.15)と同数であった。(男性2人)
- 淋菌感染症：報告数5人(0.38)で、前月(1.2)の約0.3倍、昨年11月(0.31)の約1.2倍であった。(男性4人、女性1人)



【全国】 定点医療機関総数：982

定点医療機関からの報告総数は3,797人(3.9)で、前月比94%と減少した。疾患別報告数は、性器クラミジア感染症1,951人(2.0)で前月比94%、性器ヘルペスウイルス感染症728人(0.74)で前月比97%、尖圭コンジローマ456人(0.46)で前月比96%、淋菌感染症662人(0.67)で前月比92%であった。

### □薬剤耐性菌

【宮崎県】 定点医療機関総数：7

定点医療機関からの報告総数は21人(3.0)で前月比140%と増加した。また、昨年11月(3.6)の約0.8倍であった。

《疾患別》

- メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：報告数20人(2.9)で、前月の約1.3倍、昨年11月(3.4)の約0.8倍であった。70歳以上が全体の約8割を占めた。
- ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：報告数1人(0.14)で、昨年11月(0.14)と同数であった。(前月報告なし)
- 薬剤耐性緑膿菌感染症：報告なし。

【全国】 定点医療機関総数：473

定点医療機関からの報告総数は1,491人(3.2)で、前月比98%とほぼ横ばいであった。疾患別報告数は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症1,325人(2.8)で前月比97%、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症156人(0.33)で前月比107%、薬剤耐性緑膿菌感染症10人(0.02)で前月比67%であった。

宮崎県 感染症情報

(71定点医療機関)

2016年 第49週(12月5日～12月11日)

疾病名		第48週	第49週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数	61	43	5	9		21	2		6		
	定点あたり	1.03	0.73	0.31	0.90	0.00	4.20	0.40	0.00	3.00	0.00	0.00
RSウイルス 感染症	報告数	27	22	5	6	3	3	1			2	2
	定点あたり	0.75	0.61	0.50	1.00	0.75	1.00	0.33	0.00	0.00	0.50	2.00
咽頭結膜熱	報告数	31	21	10	4	1	4	1			1	
	定点あたり	0.86	0.58	1.00	0.67	0.25	1.33	0.33	0.00	0.00	0.25	0.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	60	76	31	7	10	12	3	9		4	
	定点あたり	1.67	2.11	3.10	1.17	2.50	4.00	1.00	2.25	0.00	1.00	0.00
感染性胃腸炎	報告数	750	937	375	117	73	73	101	65	17	61	55
	定点あたり	20.83	26.03	37.50	19.50	18.25	24.33	33.67	16.25	17.00	15.25	55.00
水痘	報告数	25	32	4	2	12			4	1	9	
	定点あたり	0.69	0.89	0.40	0.33	3.00	0.00	0.00	1.00	1.00	2.25	0.00
手足口病	報告数	122	99	25	16	5	6	16	10		17	4
	定点あたり	3.39	2.75	2.50	2.67	1.25	2.00	5.33	2.50	0.00	4.25	4.00
伝染性紅斑	報告数	33	28	12		2	2		1		11	
	定点あたり	0.92	0.78	1.20	0.00	0.50	0.67	0.00	0.25	0.00	2.75	0.00
突発性発しん	報告数	33	29	6	7	6	3	2	3		2	
	定点あたり	0.92	0.81	0.60	1.17	1.50	1.00	0.67	0.75	0.00	0.50	0.00
百日咳	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ヘルパンギーナ	報告数	7	7	1	1	2					3	
	定点あたり	0.19	0.19	0.10	0.17	0.50	0.00	0.00	0.00	0.00	0.75	0.00
流行性耳下腺炎	報告数	23	20		4	2		4	3	6	1	
	定点あたり	0.64	0.56	0.00	0.67	0.50	0.00	1.33	0.75	6.00	0.25	0.00
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	28	15	15								
	定点あたり	5.60	3.00	7.50	0.00	0.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数	1										
	定点あたり	0.14	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ 肺炎	報告数	3	11	4		2			2		3	
	定点あたり	0.43	1.57	4.00	0.00	2.00	0.00	0.00	2.00		3.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

インフルエンザ定点:59、小児科定点:36(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:5、基幹定点:7

上段:報告数  
下段:定点あたり報告数

●全数把握対象疾患累積報告数(2016年第1週～49週)

2類感染症	結核	195例(4)				
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	14例				
4類感染症	E型肝炎	3例	A型肝炎	3例	重症熱性血小板減少症候群	8例
	チクングニア熱	1例	つつが虫病	43例(9)	デング熱	1例
	日本紅斑熱	6例	レジオネラ症	1例		
5類感染症	アメーバ赤痢	13例	ウイルス性肝炎	5例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	10例
	急性脳炎	10例	クロイツフェルト・ヤコブ病	1例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1例
	後天性免疫不全症候群	6例	侵襲性インフルエンザ菌感染症	3例	侵襲性肺炎球菌感染症	7例
	水痘(入院例)	3例	梅毒	9例	播種性クリプトコックス症	5例(1)
	破傷風	2例	風しん	1例		

( )内は今週届出分、再掲

感染症流行予測調査事業の一環として、2016/2017年のインフルエンザ流行シーズン前における県内の抗体保有状況調査を宮崎県健康づくり協会および県立宮崎病院の協力を得て実施した。

調査では、9年齢群・270名（0～4歳：54名、5～9歳：21名、10～14歳：24名、15～19歳：27名、20～29歳：44名、30～39歳：25名、40～49歳：25名、50～59歳：25名、60歳以上：25名）から同意を得て、2016年7月1日から9月14日に収集した血清を対象とした。また、下記の4抗原（今シーズンのワクチン株）を用い、赤血球凝集抑制抗体（HI抗体）価の測定を行なった。

1. Aパンデミック型：A/California (カリフォルニア) /7/2009 (H1N1) pdm09
2. A香港型：A/Hong Kong (香港) /4801/2014 (H3N2)
3. B型：B/Phuket (プーケット) /3073/2013 (山形系統)
4. B型：B/Texas (テキサス) /2/2013 (ビクトリア系統)

#### [ 調査結果 ]

感染防御に有効と考えられる40倍（1:40）以上の抗体保有状況は以下のとおりであった。  
また、80倍（1:80）以上及び160倍（1:160）以上の抗体保有状況も併せて図に示した。

1. Aパンデミック型：A/California (カリフォルニア) /7/2009 (H1N1) pdm09に対する抗体保有状況  
5～59歳の各年齢群では60%以上（60.0～90.5%）と高く、特に5～9歳群で最も高い保有率（90.5%）であった。60歳以上の年齢群では比較的高い保有率（48.0%）であった。0～4歳群では比較的低い保有率（22.2%）であった。
2. A香港型：A/Hong Kong (香港) /4801/2014 (H3N2)に対する抗体保有状況  
5～19歳の各年齢群及び60歳以上の年齢群では60%以上（63.0～85.7%）と高い保有率であった。30～39歳の年齢群では比較的高い保有率（44.0%）を示し、20～29歳及び40～59歳の各年齢群では中程度（32.0～38.6%）であった。0～4歳群では比較的低い保有率（16.7%）であった。
3. B型：B/Phuket (プーケット) /3073/2013 (山形系統)に対する抗体保有状況  
20～29歳の年齢群で最も高い保有率（84.1%）を示し、15～19歳の年齢群及び30～49歳の各年齢群では比較的高い保有率（40.0～52.0%）であった。しかし、0～14歳の各年齢群及び50歳以上の各年齢群では中程度以下の保有率（3.7～37.5%）を示し、特に0～4歳群ではきわめて低い保有率（3.7%）であった。
4. B型：B/Texas (テキサス) /2/2013 (ビクトリア系統)に対する抗体保有状況  
全ての年齢群で40%以下であり、50歳以上の各年齢群で比較的低い保有率（12.0～24.0%）を示し、5～9歳の年齢群では低い保有率（9.5%）を示した。0～4歳の年齢群の抗体保有率は0.0%であった。

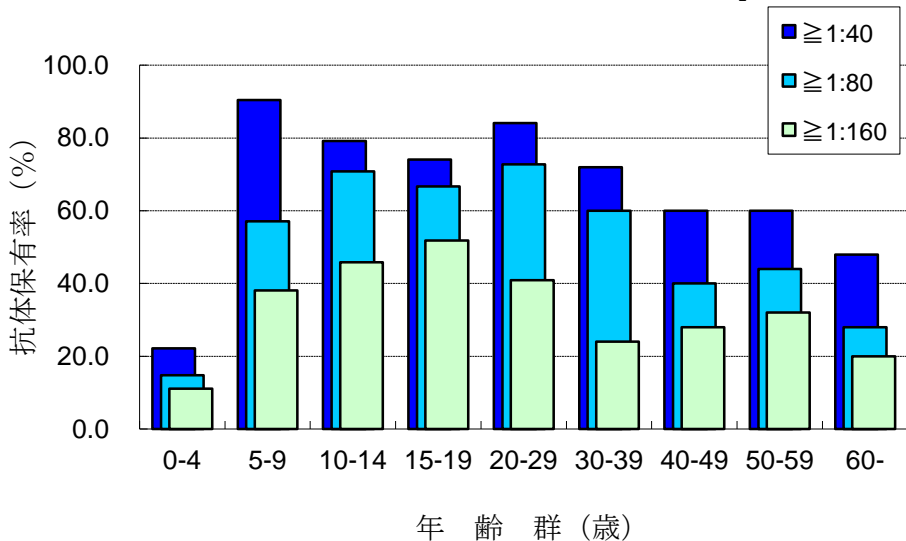
#### [ コメント ]

2015/16シーズンは、全国的にAH1pdm09亜型、AH3亜型及びB型の混合流行で、流行の主流は2013/14シーズン以来2シーズンぶりにAH1pdm09亜型であった。また、宮崎県でも同様の流行が見られた。

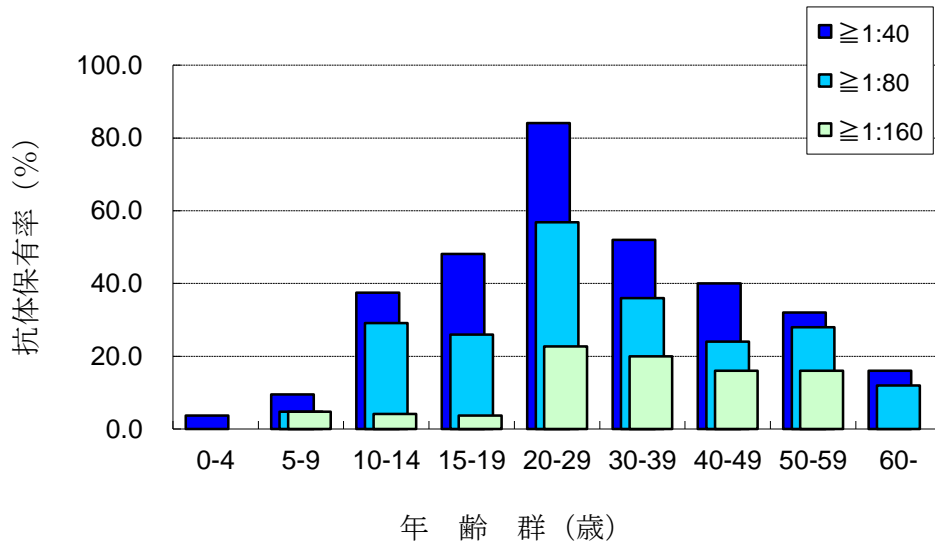
AH1pdm09亜型の40倍以上の抗体保有率は前年度と大きな変化は見られなかった。年齢群別の抗体保有率は5～59歳と幅広い年齢層で高く、昨シーズンのAH1pdm09亜型の流行を反映していると推測される。AH3亜型の40倍以上の抗体保有率は、前年度に比べ全体的に高い傾向であった。年齢群別の抗体保有率は特に5～19歳で高く、学校等の集団生活における感染の可能性も考えられる。B型の40倍以上の抗体保有率は、前年度に比べると2種類とも全体的に高い傾向であったが、山形系統では年齢群別の抗体保有率は20～39歳を除く全ての年齢群において50%以下で、ビクトリア系統では全ての年齢群において抗体保有率が40%以下であった。

病原微生物検出情報によると、今シーズンは全国的に例年よりも早くインフルエンザの流行シーズンに入っており、現在のところAH3亜型優位となっている。本県でも報告数が増加しつつあるため、ワクチン接種や手洗いなどの予防対策が必要である。

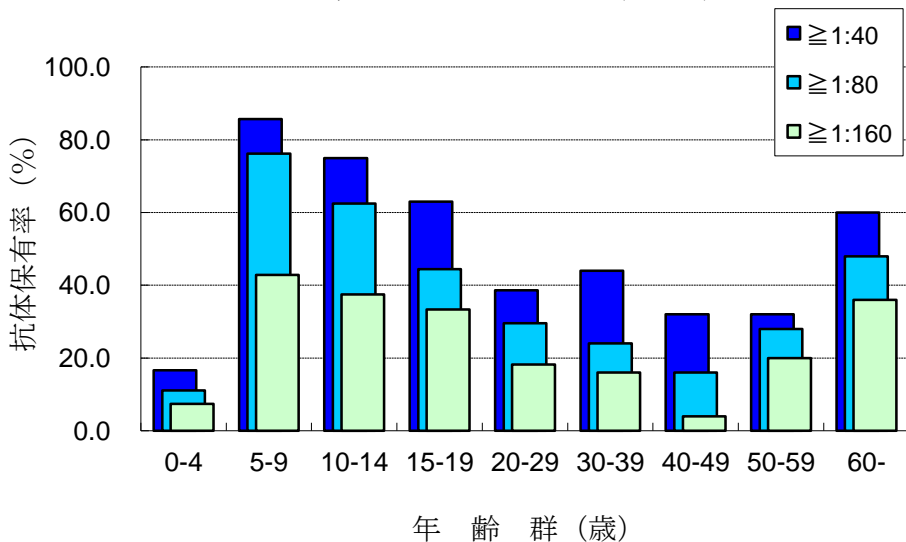
A/カリフォルニア/7/2009 (H1N1)pdm09



B/プーケット/3073/2013 (山形系統)



A/香港/4801/2014 (H3N2)



B/テキサス/2/2013 (ビクトリア系統)

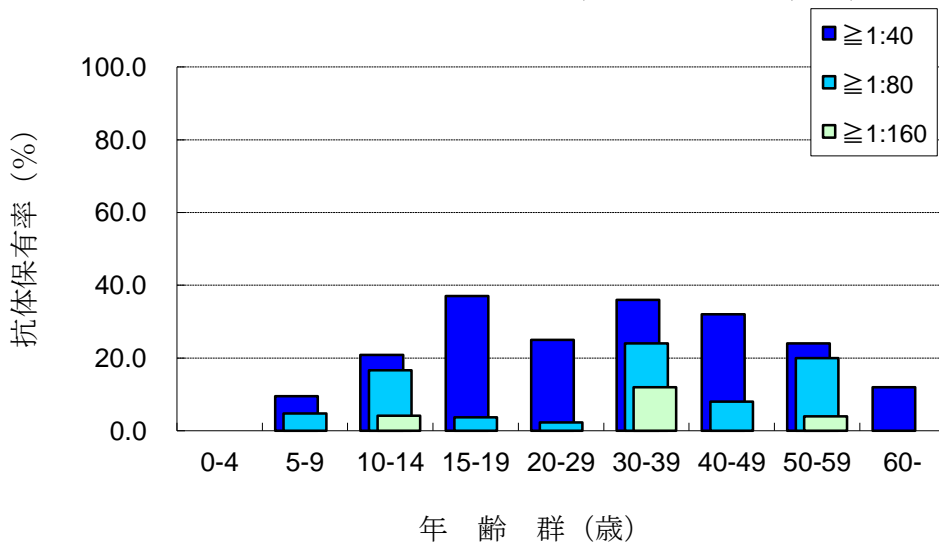


図 宮崎県における年齢別HI抗体保有状況(2016/2017シーズン前)